

富山県人口ビジョンの進捗状況について

平成27年10月に策定した「富山県人口ビジョン」における国立社会保障・人口問題研究所の推計方法に即した試算によれば、本県の将来人口は2060年に約64.6万人まで減少する見通しとなっています。この推計では、合計特殊出生率は1.4程度で推移するほか、人口の流出が段階的に減少して2020年には半減し、その傾向が継続するとの前提に立っています。

この見通しを踏まえ、本県では、結婚、出産、子育ての願いがかなう環境整備（自然減の歯止め）や、産業の振興、雇用の創出、県外からの移住促進（社会増への転換）等の施策を進めるため、平成27年10月に「とやま未来創生戦略」を策定しました。「富山県人口ビジョン」では、この戦略に掲げる施策を着実に推進することにより、2030年には県民希望出生率1.9、2040年には人口置換水準となる合計特殊出生率2.07を実現するほか、2020年には若年層（15～34歳）の大都市圏等への転出超過を改善し、移動均衡を達成することで、2060年に本県が目指す将来人口を約80.6万人と設定しています。

このたび、令和2年度を始期とする新たな「第2期とやま未来創生戦略」を策定するにあたり、「富山県人口ビジョン」の進捗状況を把握するため、前回と同様、国立社会保障・人口問題研究所の推計方法により改めて試算したところ、2060年の本県の将来人口は、近年の合計特殊出生率の改善や社会動態の改善等を背景に前回推計時から約3.3万人増加し、約67.9万人となるものと見込まれました。この結果は、2060年に本県が目指す将来人口80.6万人の達成に向けたプラス材料といえます。

一方で、若年層の転出超過が継続していることや外国人の社会増が一段落したことなどにより、2019年の社会動態は△813人（特に15～34歳は△1,159人）と4年ぶりに転出超過となるなど、今後の社会動態が不透明な状況にあるほか、県民希望出生率1.9の実現までには依然として乖離があることなど、本県の人口見通しは、未だ楽観を許さない状況にあります。

このため、本県が目指す将来人口については、引き続き、80.6万人（2060年）とした上で、北陸新幹線の敦賀延伸や5Gなど未来技術の活用、SDGsの推進など分野横断的な視点も取り入れた「第2期とやま未来創生戦略」を策定し、本戦略に基づく各般の施策を進め、その実現に向けて取り組みたいと考えています。

富山県人口の推移と未来へのビジョン ~2060年に総人口80.6万人をめざす~

H18,19: 1.34 → H27: 1.51 → H28: 1.50 → H29: 1.55 → H30: 1.52

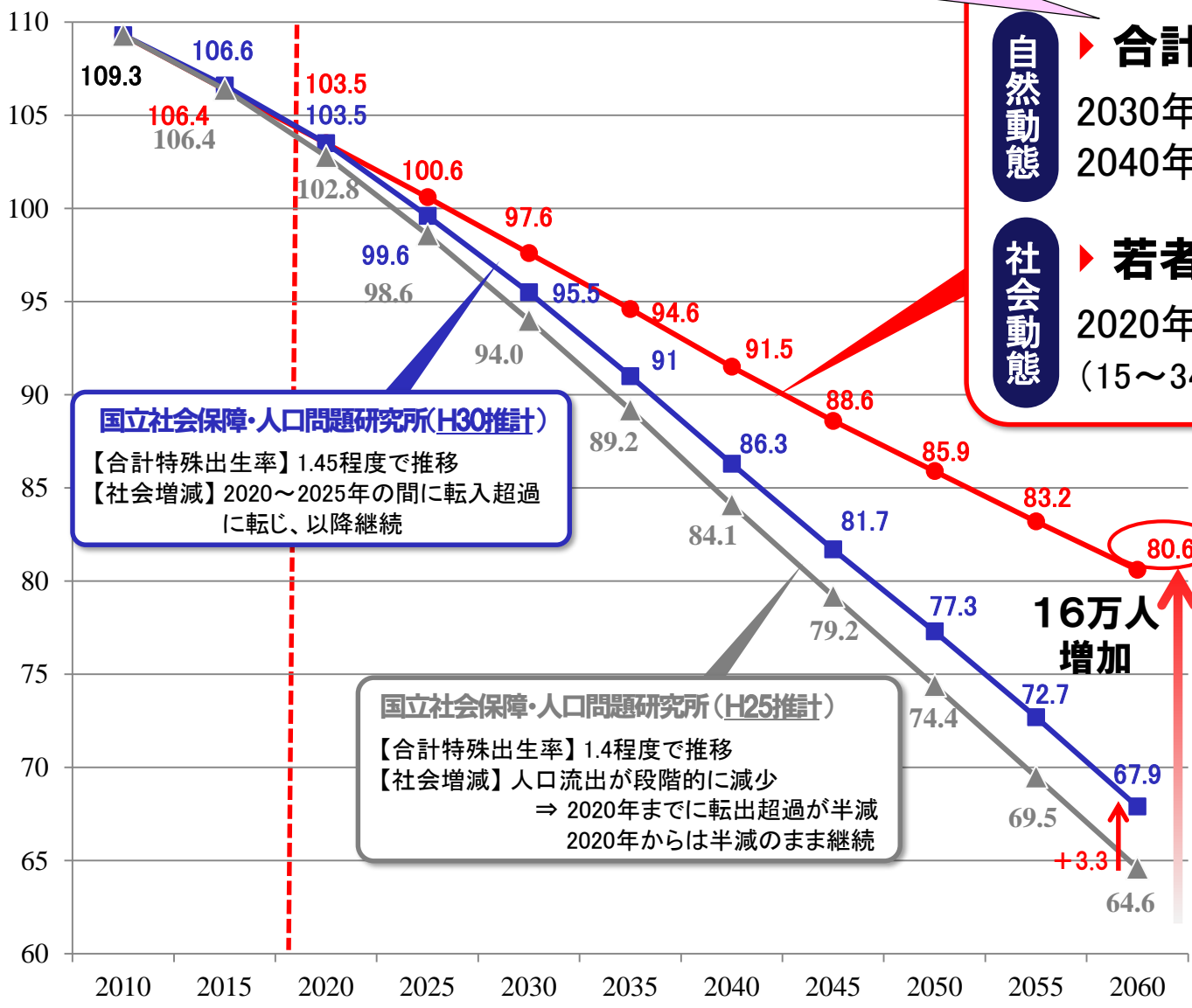
富山県人口ビジョン

自然動態

- ▶ **合計特殊出生率の上昇**
- 2030年 県民希望出生率 1.9 を達成
- 2040年 人口置換水準 2.07 を達成

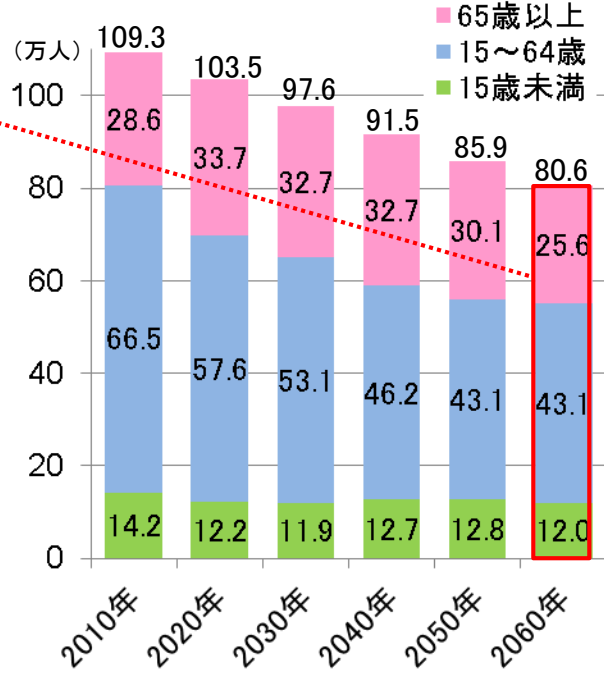
社会動態

- ▶ **若者の転出抑制と転入促進**
- 2020年 若者世代の移動均衡を達成
(15~34歳の1,550人の転出超過を改善)



国立社会保障・人口問題研究所(H30推計)
 【合計特殊出生率】1.45程度で推移
 【社会増減】2020~2025年の間に転入超過に転じ、以降継続

国立社会保障・人口問題研究所(H25推計)
 【合計特殊出生率】1.4程度で推移
 【社会増減】人口流出が段階的に減少
 ⇒ 2020年までに転出超過が半減
 2020年からは半減のまま継続



16万人増加

+3.31